

## 沖縄県SDGs実施指針(素案)に対する県民意見及び対応について

【募集期間】令和3年7月16日(金)～令和3年8月20日(金)

【募集方法】郵送、メール

【意見等の数】10名(個人3・団体7)から延べ40件

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
1	7頁 6行目	<p>医療に関して 沖縄県として「医療ツーリズム」を推進していけると面白いなと 考えています。 島くとぅばにも「ぬちぐすい」という考え方があり、かつてはブ ルーゾーンの一つに数えられた沖縄であるため、沖縄ならではの 要素を医療に取り入れることができれば医療の充実とともに 観光推進にもつながるのではと思います。 課題としては高度医療設備の用意と病院とホテルの中間のよう な宿泊施設(入院施設)を設定できるかどうかかと思ひます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまと めることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将 来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」 として取りまとめる予定です。 ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考 とさせていただきます。</p>
2	7頁 20行目	<p>世界平和への貢献発信に関して 伝統工芸を通じて発信していくことで効果的に発信できると信 じています。平和を伝えるというどうしても堅苦しいイメージが りなかなか受け入れがたいところが正直あると思ひます。 一方で、歌や踊りは楽しめるイベントとして人気があります。ま た、歌や踊りには人の心を動かす力があります。沖縄でも例え ばエイサーなどは踊りとして沖縄独自であり、人気もあり見て いても面白いものだと思います。他にも、スポーツにも平和の 発信に大きな影響があると思ひます。オリンピックがとてもない 例だと思います。 そこで、伝統工芸×スポーツということでエイサーをプロスポ ーツ化出来たら面白いかなと思ひました。目的は世界平和の発 信として、採点基準を新体操やアーティスティックスイミングの ように一体感や技術点に加えて平和を表現できているかを基 準に設け、スポーツにします。沖縄の新しい観光資源にもなる かなと思ひます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまと めることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将 来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」 として取りまとめる予定です。 ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考 とさせていただきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
3	8頁 15頁	<p>P8の将来像との関係図④とP15～ステークホルダーに期待される役割との整合性がとれていないと感じます。沖縄は正に全国でも有数の「観光立県」であるはずでは？であれば、基幹産業の屋台骨である「各地域の商店街」のポジションが、どこにも見えて来ないのは何故でしょうか？SDGsでの商店街の役割については特にNo.8・No.9・No.11・No.17に「フィット」するのでは？と存じます。商店街で開催される国際的な「イベント」等が正にそれに当てはまるのでは？と考えます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案の「商店街」の役割については重要な視点であると考えております。 沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまとめることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。 ご意見につきましては、アクションプランの策定に向けた意見収集やSDGs専門部会等で議論を含めた検討において、参考とさせていただきます。</p>
4	5頁の25 行目のモニタ リング  11頁の11 行目～モニタ リングの定期 的な見直し	<p>P5の25行目のモニタリングとP11の11行目～モニタリングの定期的な見直しについて、抽象的な表現で実効的な手法が見えてこない。※基本的な数値目標を共有するとか。表現が抽象的で「曖昧」な表現に終始している様な、感じが致します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 実施指針においては、県全体の目指す方向性を指し示しているため、このような表記となっております。具体的なモニタリング、定期的な見直しについては、今後検討を行う、アクションプランにおいて設定することとしている目標設定等と関連しますので、いただきましたご意見は、アクションプランの検討において参考とさせていただきます。</p>
5	2頁 7行目	<p>●Partnership(パートナーシップ)</p> <p>他の地域との連携強化(ノウハウ共有のためのアライアンス)を組み込んではどうか。理念には「世界と交流し」と明記もされている。</p> <p>①こちらの地域へのノウハウ取り込み ②他地域への貢献によるパートナーシップ強化を目的としての提案。そもそもゴール17は、国連のKPIでは貧困国とのパートナーシップを主としていることも考慮したいところ。Leave No One Behindの観点が薄く感じるため。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案の修正箇所につきましては、国のSDGs実施指針の内容を記載したものであることから、原文のとおりとさせていただきます。ページ7に記載している本県の優先課題では「パートナーシップ」として地域を越えた多様な交流と連携の創出、技術・経験の共有と国際貢献等を盛り込んでおります。 また、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。 ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
6	7頁 11～13行 目	<p>④基幹産業として持続可能で責任ある観光(サステナブル/レスポンシブル 12 ツーリズム)の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興(農林水産業におけるブランド化等)、県経済の基盤となる安定的な雇用</p> <p>→ 全体的にSDGsに無理やり紐づいているように感じる。とくに「産業振興」はSDGsに結び付きにくいいため、農林水産業のブランド化 → 結果的に産業振興の文脈にしたほうが納得感がありそう。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案を踏まえ、優先課題について、県民の皆様に伝わりやすく、解りやすくする工夫が必要であると認識しております。 実施指針策定後、これらの優先課題について、わかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。 ご提案につきましては、当該アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。</p>
7	16頁 1～11行 目	<p>ESDについて</p> <p>この中に、産学連携促進を入れ込んではいかがでしょうか。 GIGAスクールなど多岐に渡る対応を求められている教育現場だけで完結するのは困難と考える。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご意見を反映させていただきます。</p>
8	11頁	<p>優れた取組を行う個人・団体に向けて、表彰・金融支援・公共調達等のさまざまな面から、インセンティブの設計を検討することが重要です。と記載があります。 他の地方自治体においてもSDGs推進のため認証制度の創設を検討される事例が増えてきております。 また、地方銀行など金融機関は沖縄県の動向を注視されております。 本格的に推進するためには金融機関との協働は不可欠であり、認証制度において金利優遇などをインセンティブとすることを検討されているのであれば、早急に地方金融機関との連携が必要ではないかと考えております。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご意見いただいた箇所その他、13頁において、インセンティブの設計に関し、認証制度、金融スキーム等を検討することを記載させていただいております。 ご提案の内容は、実施指針(素案)の該当内容に賛同いただく内容と受けとめつつ、金融機関と連携して検討を行うことの必要性を示していただいたものと認識しております。 実施指針策定後、ご意見を踏まえ、当該指針に基づき、金融機関と連携しながら検討を行っていきたいと考えております。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
9	4頁 23行目	<p>(2)新型コロナウイルス感染症の対応についてですが、新型コロナウイルスは、感染者の糞便に多く含まれることが指摘されており、下水道システムが不全となった場合には、感染蔓延の契機となるリスクが高いといわれています。</p> <p>地震が起これば、下水道システムが破壊され、衛生環境の確保が困難となるため、下水道システムの耐震性の強化や平時から被災した際に使用可能なトイレの備蓄も必要です。</p> <p>また、地震で上水道システムも破壊されるおそれがあることから、地下水、雨水などの多様な代替水源を利用できる機材の備蓄も必要と考えています。</p> <p>このような「感染症に強い県土づくり」に係るインフラ整備を、【目標 6】安全な水とトイレを世界中に、【目標 11】住み続けられるまちづくりを、の取組みとして「沖縄県SDGs実施指針」に反映させていただけないでしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまとめることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。</p> <p>ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。</p>
10	10頁 3～18行目	<p>SDGsの推進にあたり、既存の延長線上のとりにくみだけでは達成できない状況かと思っておりますので、変革やイノベーションの重要性(積極的に先進技術を活用することや、新たなチャレンジを推進することなど)についても記載いただく必要はないでしょうか。</p> <p>20行目以降に記載されている項目を追加することも考えられるかと思っております。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>実施指針(素案)において、基本理念の中で、継承と変革への沖縄の挑戦を明記しております。</p> <p>これらを踏まえつつ、ご意見を反映させていただきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
11	10頁 20行目	(1)「自分ごと・我が事」として捉える視点は非常に重要な要素かと考えています。 しかしながら、民間・行政等の組織においては、縦割りの弊害等で、「自分ごと・我が事」として進めることは、現状では非常に難しい状況にあるのではないかと想定しております。 トピック的なものでもよいので、県庁内で「自分ごと・我が事」を促すために、組織を横断して取組んでいる事例などがあれば、ご紹介いただけないでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 実施指針(素案)に該当箇所について、賛同のご意見として受けとめさせていただきます。 組織横断の事例については情報提供させていただきます。
12	10頁 31行目	(3)ではなく(2)ではないでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 修正意見を反映させていただきます。
13	10頁 39～40行目	SDGsを展開する体制の構成メンバーとして若者の存在をしっかり和組み込むとともに、県外に進学する若者の参画も必要となります。”との記載がありますが、この「若者」の定義(年齢で定義されているのか)をご教示いただけないでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 「若者」の年齢の定義には、様々な考え方が存在していると認識しております。 実施指針(素案)においては、「若者」の年齢の定義を限定しておりませんが、15頁34行目の記載のとおり、SDGsの達成期限である2030年やその後の社会を担う世代の参画が必要であるとの基本的な考え方を踏まえ、「若者」をSDGsを展開する体制の構成メンバーとして組み込むことの必要性を記載させていただいております。

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
14	11頁 11行目	「(3)モニタリング・定期的な見直し」のSDGsの推進においては、計画→行動→評価→改善(通称 PDCA サイクル)という一連の流れにおいて、進捗のフォローアップを行い、改善すべき内容を検証するとのことですが、震災や新型コロナといった有事においては、P(計画)からはじめる意思決定プロセスでは、成果を生むことが難しいため、Observe(観察)→Orient(情勢判断)→Decide(意思決定)→Act(行動)のプロセスによる「OODA(ウーダ)」の意思決定手法の導入を検討されてはいかがでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまとめることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。 ご提案については、当該アクションプランの検討やモニタリング・定期的な見直し作業の検討において、参考とさせていただきます。
15	15頁 10～11行 目	「責任あるサプライ・チェーン等」とは、どういう意味でしょうか。	ご意見ありがとうございます。 国のSDGs実施指針においても、ビジネスと人権、責任あるサプライ・チェーン、企業の社会的責任の取組が記載されており、今回の実施指針(素案)において、責任あるサプライチェーン等と記載させていただいております。 責任あるサプライ・チェーンは2015年に開催されたG7エルマウ・サミットの首脳宣言の政策課題の一つとして明記されたもので、民間部門における人権に関わる適正評価の手続き等を奨励するものと認識しています。人権については、世界人権宣言、国連人権規約そして労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言に明示されている権利、例えば、ジェンダー平等、同一労働同一賃金、プライバシーと表現の自由の権利など様々な権利が挙げられます。 ご意見を踏まえ、用語解説に追記させていただきます。

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
16	—	<p>社会や経済、文化や政治等、ありとあらゆる人間活動の所産である「スープラ・ストラクチャー」が「インフラ・ストラクチャー」の上部に構築されるものである以上、インフラはスープラのありようを「規定」し「決定」付けている。</p> <p>インフラのありよう、国土のありようが、その上で活動する人々のあらゆる行動を規定し、社会、経済、文化、政治、そして文明等のスープラのありように深遠かつ支配的な影響を持っているといわれている。</p> <p>沖縄のスープラに基づいた沖縄らしいSDGsを実現するためには、沖縄らしいインフラ整備が必要であることを「沖縄県SDGs実施指針」に反映させていただきたい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご承知のとおり、SDGsでは目指すべき将来像を定め、バックキャストにより取組を考えることが重要とされており、ご提案の内容と重なるところがあると認識しております。</p> <p>沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまとめることとしておりますが、実施指針策定後、具体的な将来像や取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。</p> <p>当該アクションプランの検討において、ご提案のスープラ・インストラクチャーの考え方や沖縄らしいインフラ整備の必要性を参考とさせていただきます。</p>
17	7頁 12行目	<p>④基幹産業として持続可能で責任ある観光(サステナブル/レスポンスブル)の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興、観光とつながる「食料・農業・農村」をめざし農地の表土流出抑制、有機農法等環境に配慮した営農をとおして品質の向上・ブランド化</p> <p>の修正を提案。 (本指針は理念・総論であり具体は「おきなわSDGsアクションプラン」に期待)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまとめることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。</p> <p>ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
18	7頁 17行目	<p>⑦多様な生物・生態系や世界世界自然遺産とつながるかけがえのない海を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル</p> <p>の修正を提案。 (本指針は理念・総論であり具体は「おきなわSDGsアクションプラン」に期待)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 原文においては、「自然」にかけがいのない海を含めて記載しておりますので、原文のとおりとさせていただきます。 ご提案は、かけがえのない海を強調したほうが良いという内容と認識しております。 沖縄県SDGs実施指針については基本的な指針として取りまとめることとしており、実施指針策定後にわかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。 ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。</p>
19	11頁 27行目	<p>「12の優先課題」を対象に、個別または複数の課題をテーマに〈政策提言〉を公募し、優秀提言の協働・実証</p> <p>の修正を提案。 (本指針は理念・総論であり具体は「おきなわSDGsアクションプラン」に期待)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案の内容は、原文の表彰に関する具体的な取組と認識しており、今後の表彰を含めた具体的なインセンティブの検討において、参考とさせていただきます。 ご意見を頂いた箇所では、SDGs推進の重要な視点として、表彰を含め、様々な面からインセンティブの設計を検討することの重要性を記載していることから、原文のとおりとさせていただきます。</p>



No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
20	18頁 12行目	<p>県職員がSDGsに関する作業にボランティアとして積極的に参画・協働できるインセンティブ(制)を考えます。(導入します)</p> <p>の修正を提案。 (本指針は理念・総論であり具体は「おきなわSDGsアクションプラン」に期待)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案のとおり、ボランティア活動を促進することは重要であると認識しております。 一方、修正意見の箇所については、広報及び普及啓発の方針について記載させていただいていることから、原文のとおりとさせていただきます。 実施指針策定後、わかりやすく、具体的な将来像や目標、取組などを「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめる予定です。ご提案については、当該アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。</p>
21	15頁～ 18頁	<p>零細・中小企業の経営者や社員の中には、文章の読解や用語の解釈が難しい方も多くいるため県民性に合わせた言葉を選び(難しい言葉をひらき)、可能であれば、産業別に「図解・イラストでの説明」を多用し、多くの方の理解を促すことが重要になると考えます。</p> <p>経済用語に慣れていない方、高齢の方でも理解しやすいよう「言葉をひらき、見える化する」ことを実施方針内容に求めたいと思います。何卒、宜しくお願い致します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案のとおり、実施指針の内容をわかりやすく伝え、多くの方に理解をいただくことが重要であると考えております。 ご意見を踏まえ、実施指針策定後、県民の皆様によりわかりやすく内容を伝えられるよう、概要版のパンフレットなどの作成について検討させていただきます。その中で、図やイラストを活用したわかりやすい内容となるよう検討させていただきます。</p>
22	15頁 ①～③	<p>零細・中小企業の経営者や社員が「期待される役割」について「そのマインドを醸成しやすい」文章の工夫も必要かと思えます。文章の読解が難しい方向けには動画があると大変助かります。マインドを醸成し → 我が事と感じ → 行動に起こす、一連の行動を促す「感動・心に響く」実施方針資料となることが望ましいと考えます。 そして閲覧後、感想や決意を集めるなど、意識的な「約束」を促す工夫が必要かと思えます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 多くの方に実施指針の内容を知っていただくためには、概要版のパンフレット等を作成する際、文章等についても工夫するよう検討させていただきます。 動画の作成、感想・決意などを集める工夫についても検討させていただきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
23	18頁 5行目 13行目	「沖縄県SDGsステークホルダープラットフォーム」の活用 「沖縄県職員SDGsマスターズ」の活用  意見のボトムアップ方法についても、産業別にイラスト化した説明があると実行しやすいかと思えます。	ご意見ありがとうございます。 ご意見を踏まえ、概要版のパンフレット等の検討において、参考とさせていただきます。
24	6頁 28行目	「ジェンダーの意識など」となっていますが、「など」の部分は他にどのような問題がありそうでしょうか。この部分の分析やボリュームが増えるといいなと思います。性別役割分担の意識が強く残っていることにまず同感です。実際に多くの働く女性からも同様の声を良く聞きます。ジェンダーの意識に関しては、全てにおいてですが、最も影響力が大きいのは、家庭教育だと思えます。学校教育を通して子どもたちへのジェンダー教育だけでなく、結婚前後のパートナーや、幼い子どもを持つ親世代への、家庭内での役割分担(仕事と育児、介護の両立)や、沖縄ならではの行事の在り方(多くの場合まだまだ女性ばかりがキッチンに立つ事が多いのではないかと思います)などの日常の部分での、意識改革が必要です。また、企業内での、男女による業務分担の差もまだまだありますので、県民全般へ対しての、意識改革、啓発の機会が必要だと思えます。本来の目的である、ひとりひとりが輝く社会へ向けて、アンコンシャスバイアスについて正しく知る機会なども必要になるのではないのでしょうか。言葉を掲げるだけでなく、「では実際にどうやったら、ジェンダー平等が進むのか」という部分も含めた、目標設定や専門家の配置もぜひお願いしたいです。	ご意見ありがとうございます。 国連の「2030アジェンダ」の「我々の世界を変革する」を踏まえ、「変えていくべき沖縄らしさ」と「残すべき沖縄らしさ」を基本理念に示させていただきました。 具体的な方向性については、実施指針策定後、県民意見を収集し「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」として取りまとめることとしております。 家庭教育、県民全般に対しての意識改革、目標設定等の提案につきましては、アクションプランの検討において、参考とさせていただきます。

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
25	21頁	<p>【目標 5】ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。 ⇒女児の能力強化、とは具体的にどのようなことをイメージされていますでしょうか？</p> <p>ジェンダーギャップ指数の4つの指標(経済、政治、教育、健康)の中で、日本は教育と健康の順位は高く、政治、経済の順位が低いということはすでにご存知かと思えます。つまり、日本の「教育」には性別による格差はありません。問題なのは、社会に出てから、です。社会に出てからの、企業や組織内での業務によつての性別役割分担意識による影響や、出産によるキャリアの分断、その後リカバリーできにくい構造という部分では、「女性」への能力強化はイメージがつかしました。ただ、「女児」という言葉が使われているのは、どのような意図が含まれるのかをぜひお教えいただければ幸いです。</p> <p>強化すべきは、経済、政治分野で、女性が活躍できる社会づくりだと思います。そのために、大人である私達の意識改革と働き方改革が重要になると思います。意思決定していく場に多様性があるか、が最重要です。</p> <p>また、女性活躍推進も同様なのですが、女性活躍推進を強化する際には、合わせて男性の家庭活躍推進も共に考えていく必要があると思います。来年には、男性育休の義務化なども法改正で進んでいきますので、ジェンダー平等＝女性活躍推進ではない、ということの認識をぜひ今一度意識を合わせて頂けると幸いです。男女共に、性別問わず、能力開発は必須ではないでしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>21頁は国連の「2030アジェンダ」の17のゴールの内容を参考として記載させていただいております。記載内容は外務省仮訳から引用させていただいております。</p> <p>女性及び女児の能力強化については、ゴール5のターゲットに記載されております。</p> <p>一方、経済、政治分野で、女性が活躍できる社会づくり、意識改革と働き方改革、意思決定の場に多様性があるなどの重要性、男女ともに性別を問わず能力開発が必須であるなどの提言につきましては、重要な視点であると認識させていただいております。</p> <p>また、女性活躍推進について、実施指針(素案)において示しておりますが、ご意見を踏まえ、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場面で活躍できる社会の実現に向けて取り組みたいと考えております。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
26	-	<p>琉球新報や沖縄タイムスは電子版を日常的に読み、webでも情報は集めているつもりだが、意見募集のことは宣伝されていなかったように見受けられる。素案の段階における県民の意見反映も、できる限り多くの多様な県民の意見が反映されたほうが良いことから、今回の意見募集の進め方は不十分な点があり、広い対象の意見を集められる形になっていない印象を受ける。</p> <p>募集時期と内容は、できる限り前もって県民に周知しておいたほうが良かった。SDGsにあまりなじみがない方達が、1カ月程度で何の説明もなく素案だけを読んで、「沖縄らしいSDGs」の趣旨を理解し、意見を出すというのは、非現実的な気がする。</p> <p>沖縄県SDGs推進本部の2021年度第1回会議資料に今後のパブリックコメントのスケジュールが掲載されているが、それを前もって周知する取り組みが必要なのではないかと思う。「女性や子ども、障がい者や高齢者など社会的配慮が必要な人々の意見は積極的に、そして、SDGsについて関心の高い人たちの意見に偏ることのないよう、表にでてこない声もくみ取る工夫・仕掛けを行う必要」(10ページ、34～36行目)と素案に書いており、素案・アクションプランへの意見募集も工夫・仕掛けが必要である。</p> <p>素案について解説、議論する場(ワークショップなど)が必要であり、その場に出される、自身の生活に根差した質問や意見こそが、求めるべき「県民の幅広い意見」だと思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご意見のとおり、できる限り多くの意見を収集していくことが重要であり、今後の「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」の意見収集等において、周知などを一層充実させていただきます。実施指針の解説やアクションプランに対する意見募集について説明をさせていただくようなワークショップ開催についても検討させていただきます。</p> <p>なお、今回のパブリックコメントについては、定例記者会見により知事からの発表などの広報を行ったところですが、今後、県民の皆様にも効果的に伝わるような情報発信の方法や多くの意見を集約する仕組みについて、工夫を行っていきたいと考えております。</p>
27		<p>沖縄県SDGs推進本部の今後の活動として、以下、2点の実行をお願いしたいです。</p> <p>(1) 今後の「実施指針」や「SDGsアクションプラン」の策定スケジュール、及び(パブリックオピニオンの対象となる)骨子や素案自体を、パブリックコメント募集時期の前の早い時期に県民に届ける。</p> <p>(2) 実施指針やアクションプランの解説・議論のための場(ワークショップなど)を開催する。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご意見のとおり、できる限り多くの意見を収集していくことが重要であり、今後の「実施指針」の改定や「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」の策定における素案等の早期開示又は十分な開示期間の確保に努めたいと考えております。</p> <p>実施指針の解説やアクションプランに対する意見募集等を説明をさせていただくワークショップ等の開催についても検討させていただきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
28	4頁 9～11 行目	この部分は、SDGsをじぶんごととしていく必要性について語られている側面がありますが、SDGsが「じぶんごと」であるべき理由としては、ここで書かれている「世界市民」的発想だけではなく、「自分自身の生活にも影響するから」ということも明示する必要があります。（例えば、海に投棄したプラスチックが、マイクロプラスチック・ナノプラスチックとなり、環境ホルモンとして自分たちの悪影響を及ぼしたり体内に蓄積されて胎児の発育を阻害したりする恐れがあるという点や、地球温暖化の点などから、他人事では済まなくなっている、ということがSDGs形成の背景にあると思います。）	ご意見ありがとうございます。 ご意見を反映させていただきます。

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
29	6頁 3～4 行目	<p>基本理念の内容自体には異論はありません。ですが、「誰一人取り残さない」という非常に立派で美しい理想と、実際に生きる人の生活の姿にギャップがありすぎると、生活者からの印象としては「沖縄らしいSDGs」は単なる美辞麗句に写ってしまい、県民の心には染み渡らないものになってしまうのではないかと危惧しています。</p> <p>新型コロナの影響もあって多くの人々の生活は以前よりもずっと苦しくなっており、地球環境自体も、「みんなが明るく生き生きとSDGsに関わっていけば世界は安泰」というような穏やかな状況では最早なく、世界中の国々が経済発展を目指し資源を奪い合い環境を汚染させている中で、どう人類の生存を持続させていくかという危機的な面があるものだと思います。</p> <p>実施指針自体は理想を描くことで構わないとは思いますが、今後のアクションプラン検討においては、こうした、人々の生活・地球環境の「のっぴきななさ」に即して議論し、理想と現実の過酷なギャップをどう埋めていくかということを示すものにならなければ、「沖縄らしいSDGs」が生活の実態や地球環境の現状から離れた空疎なものになり、目標を実現させていく力が弱まってしまうのではないかと気になっています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>基本理念の内容について、賛同いただいていると受けとめさせていただきます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大や自然災害などによる社会、経済への影響などを踏まえながら、県民意見を広く収集し、多くの県民の皆様とともに取り組むことができるようなアクションプランを取りまとめたいけるように検討作業を進めていきます。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
30	6頁 7～8 行目	<p>この基本理念は、本県においてSDGsを推進・実現するにあたっての、県民一人ひとりの行動の支えになり、鑑になり、道標になるもの」とありますが、県民一人ひとりの鑑とされるものが、県民一人ひとりの議論・賛同無しに決められ、提示されるというのは、違和感があります。基本理念の内容自体については特に異論はないのですが、それはあくまで「沖縄らしいSDGs」の制度的枠組みの基本となる考えであって、それを県民一人ひとりの道しるべと決めつけて提示するのは私個人としては賛同できません。一部の人間が決めた道徳を、社会を構成する全員が模範にすべき道徳として示す、ということと発想が同じような気がします。そのため、大げさに考えると、このような文言は、(県民全体の合意を確認する作業は困難なので)代表民主制に則り、県議会の場で「この基本理念は、本県においてSDGsを推進・実現するにあたっての、県民一人ひとりの行動の支えになり、鑑になり、道標になるものとする」と議論されるべきようなものではないかと思えます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 SDGsの制度的な仕組みとして、条例化の意見などもあり、国における法制化の動きを注視しながら検討していくこととしております。 その取組に関し、県議会における議論及び決議が行われることとなりますので、県議会の議員に対するSDGsに関する説明等を行うとともに、その重要性について広く理解をいただけるように努めていきたいと考えております。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
31	10頁 31～36 行目	<p>ステークホルダーという言葉は、「沖縄らしいSDGs」においてはあまり適切ではない言葉のような気がする(ステークホルダーの定義をし直してから使ったほうが良い言葉だと思う)。</p> <p>元々、ステークホルダーという言葉は、ある組織が活動を行う上で配慮すべき利害関係者を指す言葉であり、この言葉を使うメリットは、誰に焦点を当てるか(逆に言うと、誰を除いていいか、誰のことは除外していいか)を明確にすることで、活動の方向性を定めていくことにあると思われる。</p> <p>しかしながら、「沖縄らしいSDGs」における利害関係者は「全県民」となっているため、ステークホルダーという言葉を使ったところで、誰に焦点を当てるかが定まらないと思われる。</p> <p>むしろ、ステークホルダーという言葉を使ってしまったことで、本来、全県民が対象なのに、特定の団体、組織に焦点を当てるような誤解が生まれるのではないかと危惧している。</p> <p>「ステークホルダー」という言葉ほど使い勝手も良い単語はあまりない気がしますので、「ステークホルダー」という言葉を使ってしまうのはやむを得ない部分もあると思う。</p> <p>その場合でも、ステークホルダーという言葉は、利害関係者そのものを指し示すよりも、一人一人が重層的に所属するコミュニティに関して、色々な分類を示す言葉として使っていけると良いのではないと思う(「ステークホルダー」の代わりに「アクター」という言葉でも良いと思う)。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ステークホルダーについては、国連の「2030アジェンダ」や国の「SDGs実施指針」において「ステークホルダー」のキーワードを主として使用していることから、実施指針においては、原文のとおりとさせていただきます。</p> <p>一方、実施指針の説明の機会や実施指針の解説資料の作成などにあたり、ご意見を踏まえ、特定の団体、組織に焦点をあてるような表現とならないよう、検討したいと考えております。</p>
32	10頁 37～38 行目	<p>客観的データの分析等を誰に共有するのか、あるいは誰と誰が共有するのか、そして、ステークホルダーが関わる社会課題への理解を深めるのは誰なのかが、文章上からは読み取れないと思いました。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ステークホルダーに共有していくことを想定しております。社会課題への理解について、県として対応することを想定しておりますが、他のステークホルダーによる取組も想定されると認識しております。これらの仕組みについては、今後、プラットフォーム構築に向けて、検討していきます。</p>



No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
33	11頁 7行目	「2030年のSDGs達成の先にある2045年を目標とする次のゴール」というのが唐突に出てきている気がします。2045年のゴールというの何なのを示す必要があるのではないのでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 ご意見を反映させていただきます。
34	11頁 21行目	<p>県、市町村、企業・団体がSDGs活動の主体で、県民はそれを受けて個々の活動をしていく、ある種の受容側とみなされているような印象を受ける。それは「全員参加型」の取組のアイデアに準じていないような気がする。参加型／参画型とは、「脆弱な立場におかれた人々を含む誰もが…自らが当事者として主体的に参加」するものである(少なくともそれが理想的な形だと思う)。県、市町村、企業・団体等のSDGsの取組を県民に示すのではなく、「県民も含む各アクターの活動を共有し合う」という発想での枠組み作りが必要なのではないかと思う。</p> <p>仮に、そうした県民主体の取組を中心事項におかないとしても、現実的な考えだと思う(全員参加型で県民主体で物事を進めるとするのは極めてハードルが高い理想のため)。その場合「県民の参加とは何か」を明確に提示していかないと、「参加型」という考えが、形だけ『参加』の体裁を取った活動が生まれ、予算と時間を浪費し、県民の熱意や関心を冷ましてしまいかねないのではないと思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご意見を踏まえ、ステークホルダーの対象に「県民」を加える方向で修正をさせていただきます。</p> <p>プラットフォームについては、多くの県民がSDGsに参画できるような具体的な枠組みを検討することとしております。</p> <p>全員参加型の枠組みづくりについては、ご指摘のとおり、困難な面や時間を要することも想定されますが、参加型／参画型を目標に設定し、段階的になる場合もありますが、実現に向けて取り組みたいと考えております。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
35	12頁 19～20 行目 30～32 行目	<p>「国や市町村、経済界、有識者、NPO など、多様なステークホルダーが、情報交換や交流を促進し、連携しながらSDGsを推進」、「幅広い関係者（行政・自治体、民間セクター、NGO・NPO、教育機関、各種団体等）が参画」と記されており、県民を活動主体とは捉えていないという印象を受ける。10ページ 34行目で書かれている「女性や子ども、障がい者や高齢者などの社会的配慮が必要な人びとの意見」は誰が「沖縄らしいSDGs」の場に届けるのか、という点が明瞭になるべきであり、そのような人々に関わる市民団体、企業、組織が、そのような人々の声を代弁するということが暗に想定されているような印象を受ける。言葉が形骸化しないよう、「全員参加」という言葉を用いることについて検討し直したほうが良いと思われる（空疎化された美辞麗句で進められる運動・活動というのは反発や無関心を助長しかねないと思う）。</p> <p>参加型／参画型の概念に即するならば、社会的配慮が必要な人びとの意見は、自身が「沖縄らしいSDGs」の場に届けられる（反映させられる）ようにするように、社会的配慮が必要な人々こそがSDGs推進の主体となり得るように、沖縄SDGs推進プラットフォームなどの制度を構築していく必要がある。手間と時間と困難も伴うが、バックキャストिंगで実現させようことがSDGsの特徴であるならば、困難な制度設計（全員参加型の枠組み）をバックキャストिंगで実現させていくというのは理に適っている部分はあるのではないかと思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご意見を踏まえ、ステークホルダーの対象に「県民」を加える方向で修正をさせていただきます。 プラットフォームについては、多くの県民がSDGsに参画できるような具体的な枠組みを検討することとしております。 全員参加型の枠組みづくりについては、ご指摘のとおり、困難な面や時間を要することも想定されますが、参加型／参画型を目標に設定し、段階的になる場合もありますが、実現に向けて取り組みたいと考えております。</p>

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
36	19頁 12行目	「全員参加型」を実質的な形で実現させていくなれば、推進プラットフォームの在り方も大きく変える必要があると思う。「一人も取り残さない」・「全員参加型」というのは、標榜するには相当な覚悟が必要な、壮大な理想だと思う。通常の県レベルの政策では、そのような「完全さ」を求める制度設計は行わないのではないか。「全員参加型」を実現させていくには、従来見られるようなプラットフォームとは大きく異なるプラットフォームを用意する必要があるのではないかと思う。具体的には、「どうやって、社会的配慮が必要な人びと・取り残されるリスクが高い人々が主体的にSDGsに関わるか」の答え、あるいはそのためのプロセスが、図の上でも明示されるようなプラットフォームに変える必要があるのではないかと。	ご意見ありがとうございます。 プラットフォームについては、多くの県民がSDGsに参画できるような具体的な枠組みを検討することとしております。 全員参加型の枠組みづくりについては、ご指摘のとおり、困難な面や時間を要することも想定されますが、参加型／参画型を目標に設定し、段階的になる場合もありますが、実現に向けて取り組みたいと考えております。 図については、素案のとおりとさせていただきます、今後の検討等を踏まえ、令和4年度以降の改定の際に修正させていただきます。
37	37頁	「参画型」と題されていますが、元々は10ページ 13行目の「参加型」という言葉の解説だと思っておりますので、厳密には「参加型」だと思っております(学術分野や国際協力の分野では「参加型」という表現が一般的なのですが、ほぼ同じ意味合いなので、強いて直すほどのものではないと思っております)。	ご意見ありがとうございます。 国の実施指針においても「参画型」と定義されておりますので、「参加型」を「参画型」に修正させていただきます。
38	4頁 31～34 行目	文章表現の訂正 例「この提言の内容はを踏まえると、～と考えられます。」	ご意見ありがとうございます。 ご意見を反映させていただきます。

No	修正箇所	ご意見等	ご意見に対する考え方
	頁		
39	6頁	<p>自然環境の保全に関する記述をより強調できないか。例えば、6ページ22行目の「残すべき沖縄らしさ」として、「美しく多様な生物資源を有する自然環境」を追記するなど。2021年7月に沖縄島北部、西表島等が世界自然遺産に登録されているが、世界自然遺産の推薦地のみならず、県内に存在する自然環境を保全し、次世代に継承することは、SDGsを推進するにあたり本県が取り組むべき重要課題のひとつであり、今後一層の取り組みが期待される。自然環境の保全は、ゴミの分別やゴミ拾いといった個人の活動から脱プラスチックや脱炭素といった企業活動にまで幅広く影響し、観光地としての価値向上にも繋がりうる重要テーマであることから、より強調すべきと考える。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案の自然環境の保全の重要性は認識しているところであり、優先課題においても多様な生物・生活系、世界自然遺産、環境保全などを示させていただいております。 今後、実施指針策定後、広く県民意見を収集し、「おきなわSDGsアクションプラン(仮称)」を取りまとめることとしており、参考とさせていただきます。</p>
40	6頁	<p>「沖縄県職員SDGsマスターズ」について、SDGsの推進者として県職員が企業に関与する場合は、制度概要の説明や取り組み事例の紹介等が中心になると考えられるため、特定の呼称を設定しないか「沖縄県職員SDGsコーディネーター」等の呼称にとどめてはどうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 「沖縄県職員SDGsマスターズ」による企業・団体、教育機関、市民社会組織などの勉強会、セミナー、研修等の講師を担う際、要望に応じて、SDGsの基礎知識、考え方、事例などを紹介しつつ、県の取組を説明させていただいております。 「沖縄県職員SDGsマスターズ」は要綱において名称を定めていることから、原文のとおりとさせていただきます。</p>